

平成 19 年 11 月 26 日（月）、山鹿市中央公民館において、熊本県民の方を対象に「くまがわ・明日の川づくり報告会」が開催されました。

同報告会には、約 30 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

質疑の際には、下記のとおりご意見等をいただきました。

参加者数※

県内	27 名
県外	0 名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問

【河川整備基本方針の説明について】

- ・県民の会として議事を録音するために報告会に来ている。それは国交省を信用していないから。（今回の報告会でも）国交省は、自分達の方針は変えるつもりは無く、ただ説明するだけだと聞こえる。住民の声はどこに反映されるのか。
- ・報告会の配布資料に対して、これまでの報告会で疑義や質問が出たと聞いているが、訂正しないまま使い続けたということは、資料に書かれていることを訂正するつもりは無いということか。訂正するならば正誤表という形で公開して欲しい。
- ・報告会を何回聞き、何人が参加し、何人が意見を述べたのか。その中で早くダムを造ってくれという声は何人だったのか。述べ人数でいいので教えて欲しい。
- ・（報告会で配布している）アンケートで球磨川が危険だとか危険でないとか、治水の目標が高いとか低いとかの質問があるが、小学生の問題みたいでおかしい。答えられないのでは。
- ・ダムを造るために大変な苦勞をして、費用と人員を使って報告会をしているが、何を言わんとするか分からなかった。今日の説明の目的は何か。最終的には、ダムでないといけない、ということを説明することが目的ではないか。
- ・国交省は、生命財産を守るということを言うが、ダム建設だと言いたいために嘘を言っている。過去に大臣が昭和 40 年の災害で 50 何人の被害が出たということをやったが、これは嘘だ。あの時は 1 人しか亡くなっていない。
- ・昭和 40 年の災害で被害を受けた私達は、ダムは怖いから駄目だと言っている。こういうことをどう捉えているのか。最後はダム、と持っていくための説明でしかない。
- ・小委員会は、（森林水文学の）専門家がいな森林の保水力の議論の中で、なぜ国交省の出した原案に了承が出せたのか。非常に無責任な委員会ではなかったかという気がしている。専門家がいな中では、専門的な議論は保留すべきではなかったか。
- ・配布資料 p 17 にある森林の保水力についてのグラフでは、流出量と時間の関係が分からない。森林の治水効果はピーク流量が現れてくる時間がずれるところに大きな意義があると思うがいかがか。
- ・森林の保水力が働くかどうかは、林相の問題ではないか。どのくらいの広葉樹がどのくらい混合して生えているかという林相を調べるのが一番大きな問題。
- ・人吉層について、浅川の例を出すのはナンセンス。（浅川が）どうしてそうなったかを考えれば自ずと分かる。人吉層まで掘って、また砂礫をその上に覆えば、人吉層が守られるのではないか。
- ・小委員会で本当に科学的に議論されたとは思えない。基本高水流量は政治的な数字として決められている気がする。小委員会で目標とする洪水を 80 年に 1 回、100 年に 1 回という話になった時、間をとって 90 年に 1 度にしよという話が出るような状況では科学的な委員会ではない。
- ・治水というのは、洪水が起きた時に被害を最小限にするためにはどうするかということ。温暖化で降雨量の予測が不可能な状況になるのではないかと思う。そうであれば 7,000m<sup>3</sup>/s を決めこむのではなく安全策を考えるべきだと思う。
- ・この報告会をどのように総括して、どのような方法で一般に知らせようと考えているのか。報告会では基本方

針について肯定的な意見が全くなかったと思っている。

- ・是非ダムが必要だという説明だったと思う。温暖化が進んで、今までにない流量、災害が日本全土で起きている。7,000m<sup>3</sup>/sであればダムで止められると聞いていたが、市房ダムができてから、今まで来なかったような水位まで一気に上がってしまう。かえてダムを造ったおかげで死者まで出たんじゃないかという噂を聞いた事がある。
- ・嵩上げをするのは危険という話があったが、自然の猛威に対して、人間がそれを堰き止めて防ごうというのは自然に対する配慮が足りないのではないか。もっと謙虚になるべき。
- ・森林がかなり復活しているので、それなりの保水力もあるかもしれないが、山に入ってみると根は洗われて、細長くなっていて、保水力なんて全然無い。ちょっと雨が降ると根を洗って水がどんどん流れていく。実際に流れた形跡がいっぱい見えた。
- ・植林をした木では、挿し木をしているので直根が出ない。直根が無い木は非常に脆いので、40年、50年経って、森が立派になって保水力も出てきただろうと思う頃に崩壊する。球磨川流域では、現実には山崩れが始まっている。こうしたことも情報として持っておいてもらいたい。
- ・人工林と自然林の違いがまだ解明されていない。ダムなど自然を人間の手でどうにかしようというのは、よくよく考えて進めていって欲しい。
- ・これまでの報告会で出た意見は全て公表されるということによいか。また、そこで出た意見は河川整備計画を造る段階で反映してもらわなければいけない。
- ・河川整備計画が審議される中で、上流の洪水調節施設を造る場合には費用対効果は審議されるのか。
- ・小委員会で最初にダムの話を始めたのは委員長だったはず。穴あきダムの話まで出た。
- ・(報告会で配布している) アンケートが人吉で配布したものと違うのではないか。

#### 【球磨川の治水対策について】

- ・球磨川流域には230基の砂防ダムの計画がある。美しい渓流の中に鉄筋コンクリートの塊が設置されてしまっている。国土を愛するものとして大変悲しい。砂防ダムの目的がダムへの堆砂防止にあるのではないかと国交省に尋ねても、あくまでも砂防ダムの目的は土砂災害の防止であって、ダムへの堆砂防止効果は結果的に影響される効果に過ぎないという答えだった。にわかに了解することはできない。
- ・川辺川ダム砂防事務所の回顧録の中での当時の事務所長の発言として、ダムへの堆砂量を砂防ダムに持たせる意味もあり、直轄事業として砂防事業を行うようになったと記載がある。その発言に対して(これまでも尋ねてきたが) 回答をもらっていない。
- ・整備計画にダムを入れないで欲しい。その場合、国土交通大臣は、ダムを造らないという発言をしてはどうか。
- ・球磨川本流上流部は市房ダムを造る前に拡幅して堤防もちゃんとしてあるから浸水しない。川幅はどれも十分すぎるほどあった。我々はその水の流れない部分に遊水地が出来るようにとお願いしている。(以前の報告会であったように) 上流部が狭いというような説明をされては困る。現に、大水害で上の牛舎、教習所が2回ほど流出している。そこだけは堤防が無かったからそういう目に遭っている。

#### 【球磨川の環境について】

- ・川辺川が台風の後きれいになることが無い。最近でこそ日にちが経つと少し川底が見えてきれいではある。森林などにも問題があるかもしれないが、やはり人工的なものが要因としてかなりあるのではないか。
- ・戦後の資源が足りない時期に一斉に山を皆伐して植林された。今は自然のものは1%に満たない状況。昔はどんな大雨が降っても濁ったことが無い。せいぜい乳白色になるくらいだったと聞いた。それが今は大雨が降るとどっと泥汁が流れ、梅雨が明けたらあつという間に水が無くなってしまふ。昔は10月近くまで水が満々と流れていたと聞いた。
- ・(以前の報告会の質疑の中で、) 遥拝堰の魚道が機能していない理由は水が足りないことと説明されていたが、八代平野の土地改良区の南部と北部の連合という団体が非常に多くの農業用水を取っている。年々鮎の取れる量が減っている状況である。遥拝堰の水の配分については、国交省が管理、調整をしていると聞いた。海から稚鮎が遡上してくる3月から4月にかけてだけでもこの水量の配分を変えてもらえないか。

